

山百合短歌会詠草

なれ寿司の味褒められて祭宴に
満面の笑みの亡き母が顕つ

工徳 輝子

電線を佐かせて奴は駆けぬける
金木犀の香りも乗せず

卯 月

古民家のフレンチランチで花がささき
桃色ワインをおかわりしちゃお

山野 莓

黄の花の絨毯敷きつむ金木犀

今年はまだ花芽も咲かず

てっちゃん

菩提樹の葉脈だけの葉いただきぬ
インドより来し僧師の手より

小山 和代

草しげる畑にコオロギ鳴き出でて
土の底より秋たち初める

庵戸眞知子

朝食後四種の薬飲み終へて
気合掛けるも足の重たし

仲田美智子

抜けられぬ万博ロスにグーグルは
A/Iからのお誘い流す

米倉眞佐美

義兄の身を起こさんとして肩入れる
義父の介護を蘇らせつつ

鍵本 和代

無防備に腹見せ眠る愛猫の
野生が抜けた自由なき幸

玉置 れい

独り言大き過ぎると諭されて
またかと氣づき心にしまう

宮武 厚子

歌会後の君の美声の昂聴く
『夢』の思い出淡くなりぬる

曾根 邦子

広告 町収入の一部とするため、有料広告を掲載しています。